

ESDは「持続可能な開発のための教育」と訳される。この「持続可能な開発」とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足されるような開発」を指す。今回は、ESD先進地の岡山市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」と今後の展望を紹介する。

岡山地域におけるESDの推進と「ESDに関するユネスコ世界会議」

岡山県岡山市市民協働局 ESD 推進課 課長
安田 充年

1 はじめに

岡山地域では、以前から公民館活動や環境保全、国際理解等の草の根の市民運動が盛んであり、2005年には、ESDの理念に賛同した小中学校、大学、NPO、市民団体、行政等から構成される「岡山ESD推進協議会」を立ち上げ、「岡山ESDプロジェクト」がスタートした。同年6月には、国連大学から世界初の「ESDの地域拠点（RCE）」の1つに認定され、岡山市が事務局を担い、環境保全、多文化共生、歴史・文化の伝承、まちづくり等の様々なESD活動が展開されている。

「国連ESDの10年」最終年である2014年の10月、11月には、岡山市で「ESDに関するユネスコ世界会議」ステークホルダー会合及び関連会議が開催され、延べ97か国から約3,000人が参加した。

本稿では、「ESDに関するユネスコ世界会議」誘致の経緯や、岡山市で開催された各会議の概要を紹介し、岡山市にとっての会議の成果を振り返るとともに、2015年以降の岡山地域におけるESDの推進について述べる。

2 ESDに関するユネスコ世界会議誘致に向けて

日本で開催される「国連ESDの10年」の最終年会合の開催地決定に際しては、2011年6月に文部科学省により全国の都道府県及び指定都市に対して意向調査が行われた。岡山市は、岡山ESD推進協議会を含む、岡山・香川

地域の自治体、企業、NPO、大学等関係機関・団体等の代表者で構成する「ESDの10年最終年会合岡山開催を実現する会」を発足し、地域が一体となって積極的な誘致活動を行った。

最終的に、岡山市を含む7自治体から誘致の希望が表明された結果、愛知県名古屋市において「閣僚級会合及びとりまとめ会合」、岡山市において「各種ステークホルダーの主たる会合」が開催されることが決定した。選定にあたっては、岡山地域におけるESDの充実した取り組みと関係者の実施体制の確立が高く評価された。

3 岡山市で開催された世界会議の概要

1) ESD推進のための公民館-CLC国際会議（10月9日～12日）

本会議は、2014年11月の世界会議に先駆けて、岡山市、公民館・CLC会議実行委員会及び文部科学省の主催、ユネスコ・バンコク事務所等の共催で実施され、29か国から約700名が参加した。

1日目は、全体会にて基調講演や事例発表等が行われ、2日目には市内公民館を会場に環境保全、防災、文化の多様性等をテーマに7つの分科会が開催された。

成果文書の作成にあたっては、事前の草案作成段階から案を参加者のメーリングリストを活用して公表し、会議当日もオープンボード等を活用して参加者の意見を吸い上げる等、透明性と参加型のプロセスが重視された。会

議の成果として「岡山コミットメント（約束）2014」が採択され、持続可能な社会の実現におけるコミュニティに根ざした学びや、公民館やCLCをはじめとする学びの拠点の重要性が再認識された。



成果文書の最終版を読み上げる起草委員会委員長

2) 第9回グローバルRCE会議（11月4日～7日）

グローバルRCE会議は、国連大学が主催で毎年開催されており、第9回は岡山ESD推進協議会及び岡山市も共同主催者として企画・運営に携わった。世界の129RCE（2014年11月現在）のうち68RCE から約270名が参加し、議論のまとめとして採択された「RCE岡山宣言」には、2015年以降もESD活動を継続的に推進することや、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の5つの優先行動分野全てにおいて主導的役割を果たすこと、RCE活動の更なる充実、質の向上に努めること等が宣言された。



テーマ別セッション

3) ユネスコスクール世界大会（11月6日～7日）

①高校生フォーラム

世界32か国から200名の高校生、引率教員が

参加した。特徴的なのは、会議の準備・運営が全て高校生により実施されたことである。

会議当日は、各チームによるESD実践の発表や議論が行われ、成果は「高校生フォーラム共同宣言」にまとめられた。多様な生活様式や文化、意見を共有・尊重し合うことや、一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち責任ある行動をとること、持続可能性について学び合いながらESDについて発信していくこと等が共有された。

②教員フォーラム

高校生フォーラムに参加した引率教員40名のほか、ファシリテーター等を含む約100名が参加し、ESDにより達成できたものは何か？2014年以降のESD推進のために教師やユネスコスクールが果たすべき役割や行動とは何か？という2つのテーマについて議論した。議論の要旨は、翌日の全国大会で発表された宣言に盛り込まれた。

③全国大会

学校関係者、教育委員会、保護者、地域の人々、NPO、企業、大学等の関係者約1,000名が参加した。岡山市立京山中学校が受賞・事例発表した第5回ESD大賞授賞式のほか、国内外のユネスコスクールの交流実践発表、テーマ別交流研修会、ESD博覧会では実践事例のポスター発表等が実施された。議論された内容は、「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」にまとめられ、発表された。



発言するガーナの高校生

4) ユネスコESDユース・コンファレンス（11月7日）

本会議には、48か国から50名が参加した。5,000件以上の応募の中から選ばれて世界から集まった次世代のリーダーたちは、地域コミュニティ、社会的起業等のテーマについて議論した。会議の成果は「ユース・ステートメント」としてまとめられ、ESDは社会に活力を生み出すツールであり、若者はESD推進に重要な役割を果たすこと等が提言された。



グループワークする参加者たち

5) 教師教育に関する国際会議（11月14日～17日）

本会議は、愛知県名古屋市における閣僚級・とりまとめ会議後に開催された（国際教師教育ネットワーク主催）。10年の成果と課題の共有、GAPの推進方策に関する討議のほか、防災や生物多様性、教員の能力開発や評価方法等の個別のテーマに関する議論が展開された。最後に、参加者の今後2年間の取り組みがコミットメントとしてまとめられた。



今後のESDの取り組みについて議論する会議参加者

6) ESDウィーク・オープニングセレモニー

「ESDウィーク」の初日である11月6日には、会議参加者をはじめ、ESDの実践者や地元関係者が一堂に会し、オープニングセレモニーが開催された。地元の青少年合唱団によるパフォーマンスや、ユネスコ前事務局長松浦晃一郎氏による「人類にとってのESDの重要性」をテーマにした基調講演、岡山の持続可能な地域づくりやESDの実践、魅力を表現した「岡山からのメッセージ」の上映等が行われ、世界会議の成功と世界会議開催以降のESDの更なる推進に向けて思いを一つにすることができた。

7) 岡山市にとっての世界会議の成果

会議の運営にあたって、各会議の歓迎レセプションやフェアウェルパーティでは、温羅伝説をモチーフとした「うらじゃ」踊りをはじめ、随所に岡山らしさを取り入れた。各会議のエクスカージョンでは、岡山をはじめ備讃瀬戸の魅力を体感し、持続可能な地域づくりやESD活動に触れていただくことができた。



「うらじゃ」踊りで盛り上がるフェアウェルパーティ

サイドイベントでは、地元小学生をはじめとするESD活動団体の発表や展示等を通して会議参加者と地域の人が交流できる機会を設けることにより、ESDの認知度や理解度の向上を図ることができた。

会議運営に際しては、カーボンオフセット等環境配慮を行ったほか、宗教や文化にも配慮した。また、参加者の誘導や受付等多くの市民ボランティアの協力を得ることができ、

岡山地域を挙げた心を込めたおもてなしは参加者に大変好評だった。



緑ジャンパーを着たボランティアがお出迎え

また、会議を通じて、岡山地域におけるこれまでのESDの取り組みをまとめた「ESD岡山モデル」を世界各国から集まった参加者に発信し、ESD推進都市としての存在感を示すことができたと考えている。

4 岡山地域における2015年以降のESDの推進

1) 「岡山ESDプロジェクト2015—2019基本構想」

岡山地域では、今後どのようにESDを推進していくのか。

岡山ESD推進協議会は、10年間のESD推進における成果や課題に加え、2015年に新たな枠組みとしてスタートしたGAP等の国際的な動向及びパブリックコメント等で集められた意見を踏まえ、従来の基本構想を見直し、「岡山ESDプロジェクト2015—2019基本構想」を策定した。

2015年以降は、「岡山地域と地球の未来について、共に学び、考え、行動する人が集う岡山地域を実現すること、及び、岡山地域での取組を通して、世界中で、環境・経済・社会各分野において調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献すること」を目指して、次の8つの重点取り組み分野を定めて戦略的にESDの実践を促進していく。

- ①持続可能な地域の姿の共有
- ②ユース・人材育成

- ③地域コミュニティ・公民館でのESD推進
- ④学校でのESD推進
- ⑤優良事例の顕彰
- ⑥ESD活動の拡大
- ⑦企業・事業者の取り組み促進
- ⑧海外や国内との連携

これからの5年間は、「広く・浅く」から、「広く・深く」へと、引き続きESDの認知度を高める一方で、取り組みの質の向上を図っていく予定である。また、世界会議を経てさらに広まったRCEや公民館・CLC、及びユネスコスクール等のネットワークを活用し海外との連携事業を促進していきたい。

2) 岡山市のGAPへの貢献

本年4月に岡山市は、ユネスコが牽引するGAPの5つの優先行動分野（①政策的支援、②機関包括型アプローチ、③教育者、④ユース、⑤地域コミュニティ）のうち、⑤地域コミュニティの推進機関（キーパートナー）の1つに認定された。キーパートナーとして他の組織と連携しながら、岡山地域のESDを推進するとともに、世界における持続可能な社会づくりに貢献していきたい。

5 終わりに

世界会議開催にあたっては、ユネスコ、国連大学等の国際機関、文部科学省、環境省をはじめとする政府機関、周辺自治体、学校、大学、企業やメディア、市民の皆様等の多大なご協力をいただいた。この場を借りて、改めて感謝したい。

ESDの取り組みについては未だ全国に普及しているとは言えない。持続可能な社会の実現に向けて関係機関が一層連携を強めていくことが求められている。